



—北アフリカ地域ニュース—

リビア：ロシアのラヴロフ外相の発言（5月13日）

（13日付ロシア報道）

1. リビアに関する国際コンタクト・グループには、国際法の観点から合法性がない。ロシアは国連安保理メンバーであり、同グループに加わる必要はない。ジュペ仏外相がプレスを通じてロシアに対しコンタクト・グループへ加わるよう提案しているとしても、ロシアは公式な提案は受け取っていない。
2. 大体において、コンタクト・グループに合法性が欠如していることは、そのメンバー自身ですら理解している。コンタクト・グループは、全体的に、自主的な組織機構であり、自ら（安保理）決議を履行する責任を有するメカニズムであると宣言している。
3. リビアにおける多国籍の行動には、あまりに多くの国連安保理決議違反がある。（民間施設、病院、外国の公館に爆撃が行われていることを指摘し）これは容認できないことである。大部分において、国連安保理はこれを認可していない。多国籍はマンデートの枠を逸脱していないとしてこれを正当化する試みは根拠が薄弱である。
4. 多国籍各国に対し、その活動に対する完全かつ適時の報告を国連安保理に行うよう求める。ロシア、ブラジル、インド、中国、南アフリカといった諸国は、多国籍に向けられた諸々の疑問に対する彼らの回答が、未だ我々を十分満足させるものではないと考えている。